



栄養として必要なビタミンについて

ビタミンとは、生理機能を維持するために不可欠であるが、体内で作ることができない、または作れても十分でないため栄養素として摂取する必要があるものです。

主に13種類が知られており、脂溶性ビタミン(A、D、E、K)と、水溶性ビタミン(B1、B2、B6、B12、C、ナイアシン、パントテン酸、ビオチン、葉酸)に分けられます。

当院採用のビタミン製剤またはビタミン含有製剤(※注射剤に限る)

チアミン(B1)

アリナミンF(B1)

パントシン(パントテン酸)

シアノコバラミン(B12)

アスコルビン酸(C)

ビタメジン(B1、B2、B12)

ケイツーN(K)

ビタジェクト(13種類)

ビーフリード(B1 含む)

フルカリック(13種類 含む)



不足すると？

全てのビタミンにおいて欠乏症が知られていますが、水溶性ビタミンの欠乏症は比較的短期間で出やすいとされています。

特に注意すべきは糖液投与時のビタミンB1不足による乳酸アシドーシスや脳障害です。乳酸アシドーシスは致死率の高い疾患で、高齢者や脱水の場合ではさらにリスクが高いといわれており、注意が必要です。

摂り過ぎると？

水溶性ビタミンは容易に尿中に排泄されるためほとんど問題ないと考えられていますが、脂溶性ビタミンは蓄積されやすいため、投与量に注意が必要です。

